

平成21年度 岩本町ほほえみプラザ 事業報告書要約

平成21年度の概況	<p>平成18年度から20年度まで3年間の指定管理期間が終了し、平成20年12月24日岩本町ほほえみプラザ指定管理者として決定された。平成21～30年度の指定管理の第1年度目として、スタートした年度であった。</p> <p>総合相談担当をおき、岩本のサービスを統括する窓口とした。</p> <p>千代田区による厨房改修工事にあわせ厨房機器を整備(平成22年1月12日-2月22日)し、新たな食事サービスが展開できるようにした。</p> <p>諸関係機関との連携の下「安心・安全・信頼」を高められるサービス提供責任者会議の定期開催をめざし、各フロア各事業を全体として調整を図った。</p> <p>1 サービス向上</p> <p>ほほえみサポート隊 個人登録51名、団体登録5団体、延べ 440名が活動した。</p> <p>第三者評価(10/29-10/31デイサービス、ショートステイ、グループホーム、ケアハウス)、情報公表(11/17デイサービス、ショートステイ)、法人サービス自己評価・意見交換会(12/29-2/3)、法人監事監査(2/17)、東京都実施検査指導(短期入所・通所介護1/13-14)、千代田区労働環境モニタリング調査(1/18・1/20)</p> <p>ほほえみサポート隊:活動補助サポート(麻雀・傾聴)の登録が増え利用者に潤いをもたらした。環境整備サポート(花壇の手入)とグループホームの交流もできた。</p> <p>東京都実地検査指導から介護計画書・記録の充実について指摘を受け改善した。</p> <p>2 部署間の連携</p> <p>健康回復支援ショートステイの利用者が増え、あんしんセンター神田他、各事業の協力・情報共有が計られた。一方で課題も見え順次検討している。</p> <p>3 地域交流</p> <p>神田祭(5/9-5/10)、鯉のぼり、夕涼み会(7/25)、ラジオ体操(7/21-8/22)、わんわんパーティー(11/1)、いずみこどもプラザゲーム村(12/12)他</p> <p>運営協議会2回開催した。</p> <p>地域主催行事(神田祭、ラジオ体操、区体育大会ほか)やプラザ主催行事(鯉のぼり、夕涼み会、わんわんパーティーほか)に積極的に参加し、各職員が地域の方々と交流ができるようになった。</p> <p>4 各事業について</p> <p>デイサービス(一般30名、認知12名)</p> <p>稼働率:一般75.4%、認知45.6%(全体66.9%)</p> <p>利用者支援の成功事例を職員間で共有し、個々に合った活動・援助に結びつけた。</p> <p>東京都実地検査指導を受審(1/13)、通所介護計画書記載内容・記録充実について指摘を受け改善した。</p> <p>ショートステイ(定員20名)</p> <p>稼働率:104.8%</p> <p>東京都実地指導を受審(1/14)、短期入所生活介護計画書記載内容について充実するよう指摘を受け改善した。</p> <p>グループホーム(定員9名)</p> <p>入所基準検討、入所判定会開催1回、安心して居心地よく過ごせる環境を作る。</p> <p>入所2名、退所2名</p> <p>稼働率:97.0%</p> <p>認知症現場研修により認知症への理解を深め、適切な援助・対応を学んだことは大きな収穫になった。</p> <p>ケアハウス(定員20名)</p> <p>入居基準の検討、入居判定会開催4回、介護予防等への活動参加を呼びかけた。</p> <p>入居4名、退居6名</p> <p>稼働率:91.5%</p> <p>入居、退居が多く利用者把握に努めた。2人室は10月下旬利用者退居後、入居者がなく今後について区と検討中である</p> <p>健康回復支援ショートステイ</p> <p>実人数18名、延べ221日</p> <p>受付窓口の統一で受け入れ態勢が整い、利用者が増えることで課題が見えてきた。</p> <p>介護予防事業</p> <p>21年度の特定高齢者向け事業(栄養改善教室)は、中止となった。</p> <p>介護予防教室利用者の仲間作りのための「ほっとサロン」を2階に設置し、11月～3月の間に150名の利用があった。</p> <p>一般高齢者:7教室、活動日220日、延1550人</p> <p>介護予防事業発表会(2/21) 参加者45人、内容:介護予防各教室取り組み発表・講演会</p> <p>年間を通じて参加者が微増。2月の介護予防発表会の参加者が各教室の発表を見たことで、新たな教室への参加が増えた</p> <p>5 区民施設 稼働率:37.6%</p>
	<p>平成21年度の課題</p> <p>1 人材確保・育成と適切な職員配置を行なう</p> <p>速やかな人材補充を行なう</p> <p>施設研修(1級-3級職員対象)を充実させる</p> <p>日常業務を通じた人材育成を実践する</p> <p>2 介護計画書に基づいた支援・記録の整理に取り組む</p> <p>3 連雀との連携を深める</p> <p>在宅サービスセンターでの医療ニーズ対応検討を行なう</p> <p>地域包括支援センターとの連携・連絡(介護予防、健康回復支援ショートステイ、配食サービス)を進める</p> <p>4 厨房改修工事により食事提供能力増加</p> <p>・22年度配食サービスの実施(かんだ連雀との連携・協力体制確認)</p> <p>5 ほほえみサポート隊の充実を図る</p> <p>ほほえみサポート隊の組織化を工夫する</p> <p>6 防災意識の向上を図る</p> <p>高層ビルに対応した防災訓練を実施する</p> <p>地域との連携を図る</p> <p>7 収支バランスを改善する</p> <p>稼働率の向上を図る</p> <p>組織の見直しを図る</p>

	サービス利用・提供状況	平成21年度事業計画の執行評価
事務局担当	<p>1 家族支援システムの使用に伴い、実績の確定・確認作業が短縮され円滑になった。</p> <p>2 指定管理者を対象とした区「労働環境モニタリング」調査では特段の改善指摘がなく、適切に環境・事務処理等が行われている。</p>	<p>1 平成21～30年度の指定管理の第1年度目として、諸関係機関との連携の下「安心・安全・信頼」を高められるサービス提供ができるように、各事業を全体として調整を図った。</p>
	<p>1 職員が安定し安全なサービス提供ができた。</p> <p>2 総合相談担当を設け健康回復支援ショートステイの受け入れが円滑になり、利用者も増加した。また、更なる利用につなげるための課題も明確になった。</p> <p>3 グループホーム、ケアハウスの欠員募集から入居までの流れが整理できた。</p> <p>4 神田事業所事業推進会議の場で情報交換や課題の共有が行なわれたことで、連雀との連携が深まった。</p>	<p>1 健康回復支援ショートステイはあんしんセンターからの依頼が増えた</p> <p>2 防災意識を高めるため訓練方法等検討が必要である</p> <p>3 収入の改善と支出のバランスに課題が残った(組織の見直し)</p>
	<p>1 区民施設が町会活動、自主活動などで地域に還元できるよう環境整備を行った。</p> <p>2 町会活動、ほほえみプラザ地域交流行事、介護予防教室等に利用され、施設と地域及び区民の交流・仲間づくりの機会となっている。</p>	<p>1 地域の方々の協力を得て、多彩な展示物等や花壇などの施設内外の環境が整えられてきている。</p> <p>2 介護予防・地域交流・福祉施設の拠点として、多方面に施設が利用された。</p>
運営・管理	<p>1 通所介護(介護予防通所介護含む) 定員30名</p> <p>実績 稼働日数:311日 平均稼働率:通所介護75.4% 昨年比1.6%増</p> <p>入浴、個別機能訓練の希望が多くなっているが、人員体制含め充分にこたえきれなかった。</p> <p>2 認知症対応型通所介護(介護予防認知症対応型通所介護含む) 定員12名</p> <p>実績 稼働日数:311日 平均稼働率:認知症対応型通所介護45.6% 昨年比13.4%減</p> <p>施設入所者や長期入院等、廃止となる利用者が多い一方、新規の利用者が伸び悩んだ。</p> <p>3 一般高齢者向け介護予防教室</p> <p>ほほえみヨギ教室全曜(全48回 延べ463名参加)</p> <p>太極拳(全27回 延べ171名参加)、書道教室(全23回 延べ182名参加)</p> <p>カラオケ教室(全45回 延べ305名参加)、スポーツ吹矢(全22回 延べ179名参加)</p> <p>うた声サロン(全20回 延べ147名参加)、倶楽部いわもと(全30回 延べ103名参加)</p> <p>地域住民・ケアハウス入居者の参加が微増。2月の介護予防発表会の後から更に参加者が増加している。</p>	<p>1 通所介護計画については月1回のサービス担当者会議に見直し、検討。変更など迅速な対応ができた。22年1月の都指導検査により記入事項等改善を指摘されたので修正をしていく。</p> <p>2 職員のスキルを活かし活動を展開。グループホームとの合同活動も昨年度より継続して実施。</p> <p>3 介護予防事業は昨年度と比較し微増。ほっとサロンを11月より開始する。</p>
	<p>1 神田・麹町の両あんしんセンターを中心に広報活動を行い介護保険サービスの利用につながらない利用者に必要なサービス事業として周知が進んだことで、利用が格段に増えた。</p> <p>2 身体的な自立度は高いが、様々な事情から在宅生活が困難になっている利用者の利用があり、滞在が長期化するケースがあった。</p>	<p>必要な人が必要ときに利用できるよう、広報活動を行なったことで、あんしんセンターからの連絡から利用に至る一連の流れが確立されてきた。</p>
センター	<p>定員20名 年間稼働率91.5% 入居:4名[男性2名・女性2名] 退居:6名[男性2名・女性4名] 入居判定会:4回</p> <p>1 退居に伴う入居者募集について手順・書類を整備。退居から入居に関する対応は、総合相談担当と連携することで、外部との調整をスムーズに行い、より客観的で公平な退居や入居判定への体制を整えた。二人室については応募者が少ない上、「身体機能の低下」や「認知症の疑いがある」などの理由で、内定に至らないケースが続いている(3/31現在内定者なく空室1室)。平成21年度退居者の転居先は、介護付き有料老人ホーム2件・グループホーム1件・在宅2名・特別養護老人ホーム1名であった。</p>	<p>1 個別支援計画書を計画的に作成し、四半期ごとにモニタリングを実施。計画に沿った支援を実施出来た。</p> <p>2 2階の二室に沿ったサービスの利用が過不足なく適切に受けられるよう関係機関との連携を図った。</p>
	<p>定員9名(年度内利用、全員女性) 年間稼働率97%[入居者2名、退居者2名]</p> <p>1 認知症現場研修の導入、定期的(毎週1回)開催の定着。</p> <p>全体の日常生活リズムの見直し、生活空間の整備・改善を行い、利用者間の会話、関係が促進された。</p> <p>2 ご家族の方も行事や活動に参加しやすいよう企画・実施(ドライブや忘年会、新年会等)し、活動に関してたくさんの意見が出るようになった。</p> <p>3 花の植替えなどを通し、新たな地域との交流を拡大することが出来た。</p>	<p>1 認知症現場研修の実践から、認知症状や援助について学び、今までもてなかった疑問や課題を話し合うことが出来た。</p> <p>2 業務(環境含む)整理の実施。</p> <p>3 情報共有方法の整理、改善(取り組み中)</p>
ホーム	<p>定員20名に対し、年間稼働率104.8%で稼働した。一人の利用者が月平均7日間利用している。</p> <p>要介護度 年間平均2.8(男性2.8、女性2.9) 構成比(要介護3...31%、要介護2...30%、要介護4...23%、要介護1...8%、要介護5...7%、要支援2...1%)</p> <p>1 全ケース「短期入所生活介護計画」について、同意(のサイン等)を得ようとした。</p> <p>2 常に最新のものが確認できるようケースファイルのファイリング方法を統一した。</p> <p>3 荷物の管理方法を工夫したことで、利用者の安心につながった。</p> <p>4 東京都の実地指導を受審(1/14)、短期入所生活介護計画書記載内容の充実について指摘を受け改善した。</p>	<p>1 事業計画の課題全てに着手し、特にケースのファイリングを充実させた。</p> <p>2 多くの方が滞在できるよう利用期間の調整を行った結果、利用数が増えた。</p> <p>3 記録の充実については、継続課題。</p>
	<p>1 21年度は、利用者情報収集のためケース会議、担当者会議への参加や、ご家族・ケアマネに内服薬説明書の持参を依頼し効果もあげた。また、主治医と連絡調整・情報収集ができた。看護師の勤務体制によりCH、GHの会議に参加できないことが多かった。</p> <p>2 ささまざまな感染症が心配されるなか職員に感染症予防研修を行い、手洗いうがいの励行、手指消毒液・マスクの設置、季節型及び新型インフルエンザの予防接種を実施し、幸いにも利用者・職員の集団感染発症はなかった。</p> <p>3 個別ファイルの作成をし、情報の共有化に動めることができた。</p>	<p>1 利用者の健康状態の把握ができ、看護師の情報共有化により、他職種へのアドバイスにつながってきた。</p> <p>2 記録の充実、家族支援システムへの記録を定着させていく(次年度継続)</p> <p>3 看護師の定着が課題</p>
連携	<p>1 日平均提供食数:148食(年間提供食数:54108食) 年間平均栄養価:1570kcal たんぱく質:58g 塩分:8.6g</p> <p>1 楽しめる食事のひとつとして、調理員発案の食事(お楽しみ食)の提供を行い、好評を得た</p> <p>2 定期的な清掃を行える体制を整え、衛生管理に努めた。人材育成では、2施設対応できる職員の増員(2名)は予定通り行えた。新規事業を見据えた厨房工事においては、他部署・他施設の協力のもと安全に食の提供を行った。</p>	<p>1 お楽しみ食のひとつとして担当制による調理員発案の食事提供が行えた</p> <p>2 新規事業に関しては食の提供までにはいたらなかった</p> <p>3 2施設対応出来る職員2名増員できた</p>
	<p>1 21年度は、利用者情報収集のためケース会議、担当者会議への参加や、ご家族・ケアマネに内服薬説明書の持参を依頼し効果もあげた。また、主治医と連絡調整・情報収集ができた。看護師の勤務体制によりCH、GHの会議に参加できないことが多かった。</p> <p>2 ささまざまな感染症が心配されるなか職員に感染症予防研修を行い、手洗いうがいの励行、手指消毒液・マスクの設置、季節型及び新型インフルエンザの予防接種を実施し、幸いにも利用者・職員の集団感染発症はなかった。</p> <p>3 個別ファイルの作成をし、情報の共有化に動めることができた。</p>	<p>1 利用者の健康状態の把握ができ、看護師の情報共有化により、他職種へのアドバイスにつながってきた。</p> <p>2 記録の充実、家族支援システムへの記録を定着させていく(次年度継続)</p> <p>3 看護師の定着が課題</p>